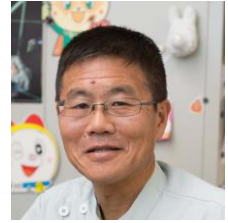


運動の質と量を強化し、安倍暴走政権の暴走にストップをかける1年に!

～年頭のご挨拶～

県連会長 中田耕次



新年あけましておめでとうございます。
 「岸边を歩いていると、助けて!とおいう声が聞こえます。誰かが溺れかけているのです、そこで私は飛び込み、その人を岸に引きずりあげます」
 「心臓マッサージをして、呼吸を確保して、一命をとりとめてホットするのをつかの間、また助けを叫ぶ声が聞こえてくるのです」「私はその声を聞いてまた川に飛び込み、患者を岸までひっぱり、緊急処置をほどこします。すると、また聞こえてきます。次々と声が聞こえてくるのです」「気がつくと私は常に川に飛び込んで、人の命を救ってばかりいるのですが、一体誰が上流でこれだけの人を川に突き落としているのか、見に行く時間が全くないのです。」(命の格差は止められるのか イチロー・カワチ著 より)

イチロー・カワチ・ハーバード大学の公衆衛生学教授ですが、民医連の医療活動を見事に一致するのでよく引用されます。

川に突き落としている人は誰か?。民医連の立場は明白です。日本国憲法を破壊しようとする人達、勢力との対峙を鮮明にしています。

止まらない貧困格差の進行。非正規雇用の増加、生活保護、医療介護の改悪、4月からの消費税で新たに国民から8兆円を奪い、一方で大企業・富裕

層への減税、防衛費は20年ぶりに増加で5兆円、中期防衛計画で25兆円。憲法違反・戦後民主主義を否定する靖国神社参拝、韓国への武器提供、辺野古への米軍新基地設置の強要、秘密保護法を強行し戦争する国づくりへ突進。安倍政権と国民との矛盾は爆発寸前です。

香川民医連も運動の輪を広げました。社保学校、辺野古支援、反核マラソン、憲法講演、脱原発、TPP、核兵器廃、秘密保護法反対など各種署名活動など大きくすすめることができました。新たに平和学校の開催、また、青年職員のジャンボリー活動の再起動、事務政策の策定と実践がなされたことは組織の発展を保障するうえで大きな成果でした。

今年は1月早々、名護市長選挙があり、社保委員長の藤原さんが勇躍、支援にいきます。また2月に民医連総会が開催されます。これをバネに、またいっそう、運動の質と量を強化し、安倍暴走政権の暴走にストップをかける1年となるようにともに頑張りましょう。



リレー投稿 **いつでも憲法**

県連理事に続いて各事業所の管理者・職場長みなさんに、憲法に対する想いをリレーで投稿してもらいます。

憲法について語ることになりましたが、まだまだ勉強不足で恐縮するばかりです。

私が憲法について考えるようになったのは、高松平和病院に就職してからです。それまでは、はっきり言ってほとんど興味はなく、学校で勉強した程度の知識しかありませんでした。

しかし、就職してからの7年間でいろいろなことを学びました。それは今ある日本国憲法をもっとよくなる改正なら歓迎ですが、今の政府は「戦争ができる憲法」に変えようとしていることです。

今までの歴史の中で、戦争をしてつらく悲しい思いをしてきたのは戦争を引き起こした政治家ではなく参加させられた人たちとその家族だと思います。もうそんな思いをしたくないという考えから今の日本国憲法が誕生したといっても過言ではないと思います。

日本国憲法は国が国民の上に置かれているのではなく、国民が国の上に置かれていると思います。これも日本国憲法の素晴らしいところだと思います。

このように世界に誇れるすばらしい憲法があるのに、それを一部の政治家たちによって自分たちの都合のよい内容にしてしまうのは、どう考えても許せません。

核廃絶を含む国際平和を考える上で、第9条を含む日本国憲法の大事さ、素晴らしさをもっと多くの人たちに広めて守っていきたいと思っています。



1/6、安倍首相は年頭記者会見で、集団的自衛権の行使容認に向けた憲法解釈変更や憲法改正の論議加速を表明

高松平和病院医事課課長 二川哲也